

1 学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることのできる学校
○児童・生徒像	○地域に根差し、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	○常に自己研鑽に努め、指導力や授業力の向上に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動意識の高い教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校全体が落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開されている。純朴で明るく素直な児童が多く、健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、素早く、組織的に対応することができている。学校に対する地域・保護者の期待は大きくPTA、地域も協力的である。教職員は、担任している児童と同様に全校児童へ積極的に関わり熱意をもって教育活動にあたっている。校内研究会や教科指導専門員等の活用、OJTの確立はできているが、さらに幼保小連携、小中連携の一層の推進を図り、個々の教職員の専門的な知識や技能、指導力を高めていく。

【前年度の成果と課題】

1 確かな学力の育成

国語75.5%、算数73.4%、全体74.5%の通過率で、区内小学校間の順位は10位上昇したが、数値自体は昨年度に比べ、1.5、3.8、2.6ポイント低下した。昨年度より、各学年とも読解力を中心に国語力を高める指導を進め、一定の成果をあげているが、算数では、数量や図形のへの理解が十分でないなど課題も残っているので、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。すべての児童の言語能力向上を目標に、授業以外でも日常的な読書活動や群読などの取組を行い、児童の「話す」「聞く」力の育成を図った。また、校内授業研究会では、国語科の指導を中心に足立スタンダードの内容の徹底を目指し、特に児童によくわかる板書やノート指導について、管理職や区教科指導専門員による週一回以上の授業観察、OJTを通し確実に身に付けさせ、授業で活用できるようにした。日常の授業でつまづきがちの3、4生の児童を対象に区そだち指導員による個別指導を実施し、各児童の学習意欲を高めることができた。

2 豊かな人間性の育成

学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」のに対して、90%以上の保護者が「よくできている」「ややできている」と回答した。開かれた学校づくり協議会の協力も得ながら年間を通し実施している毎朝のあいさつ運動を推進し、日常的に縦割り活動を進める中で、すべての児童に思いやりの心をもって優しく接するという気持ちが育ってきた。

3 健康増進・体力向上

児童の運動能力および筋力、持久力のさらなる向上を目指し、研究授業を通して体育授業や教材、指導内容の工夫に努めた。さらには、持久走週間や縄跳び週間等、一定期間集中的に運動に取り組んできた。平成30年度は東京都の運動能力調査ではわずかであるが都平均を上回る結果が得られた。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中連携	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○
4						

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△ ●	
文章力、読解力、計算力、数学的な考え方の育成		平成31年度区学力調査目標通過率 80%以上 年度末の到達目標 31年度4月調査のプラス5%以上		平成31年度区学力調査通過率二科平均70.2、国語67.0、算数73.3		S-P表分析、学力ポートフォリオをもとに、一人一人の児童の課題を把握し指導した結果、9月の再テストでは国語80.5%、算数80.4%となった。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎ ○△●
継続	朝学習 (スキルアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週月火金 (国語・算数) 1校時開始前15分	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】読解、漢字、計算等のプリント学習 ○付けは各児童、担任等が行い、当日中に返却	2か月に1回教科を指定し、ミニテストを実施	毎回のミニテストで全員が正答率80%以上の結果を出す。	達成率90%	短期的なミニテストは、習得状況が良い。児童の長期的記憶に課題がある。	○

継続・改善	放課後補習教室	全学年 国語・算数 正答率 70%未満 単元テスト 正答率 70%未満	毎週金 放課後 (教科は 隔週交代)	【指導者体制】 担任+専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別もしくは少人数指導。 算数に関しては、学習した内容を1ヶ月程度後に復習問題を実施する。 【使用教材】次へのステップ、ベーシックドリル 学校独自の算数プリント	定着度 確認テスト (1月実施)	1月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童100%	達成率 80%	長期欠席児童及び欠席の多い児童がほぼ未達成。 欠席の多い児童は現学年の内容も未習が多く課題が残る。	○
継続	サマースクール	全学年 国語・算数 各学年 約10名程度。	夏休み期間中の10日 各日45分	【指導者体制】 管理職1名+担任+専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 過去学年にさかのぼったつまずきを学力調査結果等で確認し、解けなかった問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 また、テーマごとに学年を越え補習をする時間も設定し、苦手意識の早期解消を狙う。専科はその補助を行う。 【使用教材】区学力調査補充問題・プリント教材	夏休み終了後、確認テストの実施	夏休み終了後の確認テストで全員の正答率の10%アップ	達成率 70%	夏季学習教室への参加率と相関関係がみられる。保護者が参加させない児童や欠席児童への対応が課題。	○
継続	家庭学習週間	全学年 全員	年2回 6月、12月	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習強化月間とし、宿題の提出率を各教科で確認する。 提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。 家庭学習週間の取り組み結果を学校便りで保護者へ周知する。	宿題提出状況調査	宿題提出率 90%	達成率100%	宿題の提出率は99%を超える。 欠席児童以外は100%の提出。	○

継続	読解力向上問題への取り組み	全学年 全員	年間10回 土曜授業	【取り組みのねらい・目的】 読解力向上のためドリル学習を実施し、その成果を日常のワークテストで確認する。(教材変更)	個人カルテにて経年変化を見る	上位層児童 5% 中位層児童 7% 下位層児童 10%の向上	達成率 上 50% 中 80% 下 50%	上位層は元々点数が高いので伸びしろが少ない。下位層の伸び率に課題がある。	○
継続	かけ算九九	2学年以上 全員	年間を通し給食準備の時間等スキマの時間	【取り組みのねらい・目的】 かけ算九九の全員習得をめざし、全児童確認テストを実施後、未習得児童は個別にプリント学習を行う。確認テストにて確認する。	確認テスト	100%の習得	達成率 86% 該当児童 9/45人 未達成	達成できない児童には、個別的な課題が見られる。	○
継続	読解力向上への取り組み	全学年 全員	年間を通しての国語科の授業	【取り組みのねらい・目的】 校内研究と連携し、読解力向上のため授業スタイルを変更し実施する。その成果を日常のワークテストで確認する。	単元毎のワークテスト 前年度との比較	上位層児童 5% 中位層児童 7% 下位層児童 10%の向上	達成率 上 50% 中 80% 下 50%	上位は満点が多く伸び率が低い。下位の伸び率に課題がある。	○
新規	家庭学習習慣化の取り組み	全学年 全員	年間を通して	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習の習慣化を目的とする。毎日児童が実施できる内容を行う。内容・質・学力向上を目的としない。量的目標は学年で設定する。ノートに記述し提出する。	実施回数を調査する。	全児童 100% の実施率	達成率 100%	宿題の提出率は 99%を超える。欠席児童以外は 100%の提出。	○

重点的な取組事項－2		小中連携		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上に直結した授業力向上を根幹にした連携	学校評価項目、分かりやすく丁寧な授業を行い学力も身に付いている95%以上	児童、地域、保護者による評価では、わかりやすく丁寧な授業ができているとの評価が90%に達した。	基礎・基本の定着を目指し、小中での指導方法や内容の継続性についての研究や実践を進めていく。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
重点教科による校内研究を中心とした小中連携	全学級担任と専科による校内研究授業の公開を全学級（事前授業も含む）で実施。	すべての児童の言語能力向上を目標に、文章の読解を中心とした研究授業を各学年で公開。連携校だけでなく、近隣校、幼保にも参観を呼びかける。	全学級で研究授業を実施し、児童の言語能力(特に読解力)を高めるための指導法について研究を深めることができた。	国語科の研究を他教科の指導にどう生かしていくか今後の課題である。	○
各教員の専門教科による公開研究授業の小中連携	連携校教員の専門教科ごとの研究部会による指導案検討会と研究授業を小中で実施。	校務支援システム等を活用し、事前に指導案や資料を配信し協議をより活性化させる。	各教科ごとに小中の教員が学習指導案の事前検討を行う中で、より専門的な意見交換を行うことができた。	教科によって参加する教員の数に差があり、話し合いが十分深まらなかった部分もある。	○
道徳授業を通しての小中連携	9年間を見通した内容項目の選択と、指導方法の共通化を図る。	小中でそれぞれ道徳授業を実施し、協議会を通して、児童・生徒の課題を共有化し、指導の連続性を強める。	地域や児童生徒の実情を踏まえ、足立スタンダードに示された授業形式の統一を図り、共通の形式で学習指導案を作成、実践することができた。	指導案や授業の進め方に加え、取り扱う題材や教材研究でもさらに連携を深めていきたい。	○

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成		都運動能力調査で、全学年・全調査項目で都平均を上回る。筋力・投力の向上	都運動能力調査では4学年で都平均を上回り、2学年でやや下回るという結果となった。	投力向上に向け、特に低学年で投げる運動を積極的に取り入れていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育科授業の改善	体育科公開授業を各学級一回以上実施、全ての児童が楽しいと思う体育授業の実現	恵まれた自然環境を活用し、運動量が確保できる授業実践、器械運動を中心とした体力づくりの運動の強化。	各種運動領域の特性を把握した上で、必要に応じ近隣の公園等を利用し、意図的・計画的に児童の筋力や持久力向上のための取組を実施した。	児童一人一人が自身の体や体力向上に感心をもち、進んで運動しようとする姿勢がもてるよう指導内容を工夫・改善した。	○

年間を通じた体力向上の取組	運動朝会10回、様々な運動を行う機会の提供。	休み時間を活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。	一年間に運動朝会10回、体力テスト・水泳・持久走・短縄・長縄等の各種運動月間5回、区連合運動会に参加し多くの入賞者を出した。	運動場所の確保や運動内容の工夫を職員の創意で解決し、朝練習、休み時間、体育授業を通して児童の運動量を確保することができた。	○
自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚	全児童が年間を通じた個人の体力カード活用、行事や運動月間ごとに学校記録の更新を行う。	体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭とも連携した取組の推進。	各種運動の最高記録を提示し、児童の意欲向上を図ることができた。体力カードを用い、個人記録を蓄積している。	個人の体力カードの活用を通して、児童一人一人がめあてをもって運動に取り組む意欲を高めることができた。	○

6 まとめ

1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- 校内授業研究として、国語科の授業を通して児童相互の読解力や表現力を高める指導法について研究を行い一定の成果を得た。次年度はその上に立ち、さらなる児童の言語活動の活性化と読解力の向上を目指し、国語科の授業改善を中心に研究を進めていく。
- 小中連携校の学習指導案検討会、公開研究会・協議会に全教員が参加し、実際の授業研究を通して連携の成果と課題を共有化することができた。連携中学校の学校公開や行事に教員が参加し、具体的な取組についてさらに理解を深めることができた。
- 年間を通じた体力向上の取組をすべて計画通り実施した。児童が進んで運動に取り組む授業づくりを目指し今後も職員全員で研究していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- 今年度も放課後教室を30分間、毎週1回実施した。学習内容の定着が十分でない児童に対して基礎的・基本的な内容を個別に補習をした。朝学習では主に音読、昼食前学習では計算問題の定着度の確認を行った。次年度も、区学力調査の分析資料、児童一人一人の学習記録をもとに、つまずきの解消に向けて指導の徹底を図っていく。
- 学校図書館ボランティアによる毎月の本の紹介や休み時間のお話会、図書室の環境整備等を実施していただいたことにより、児童の本に親しむ機会がより一層増えた。年間読書目標を全員が達成することを目指して各学級で取り組みを進め全学級で向上が見られた。
- 毎月の生活振り返り週間、早寝・早起き・朝ごはんキャンペーン、毎月の人権指導など、児童の基本的な生活習慣の確立や思いやりの心を育てるための取組を行ってきた。今後も関係諸機関の協力を得ながら、全教育活動を通して豊かな人間性を育てる指導を継続していく。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本年度も「知・徳・体」の調和がとれた児童の育成を目指して教育活動を推進した。全児童の読解力とともに、表現力の向上を目標に国語科の授業改善を通じた校内研究を進めた結果、児童一人一人の思考が豊かになり、お互いの意見を傾聴し良さを認め合うという場面が多くみられるようになってきた。区学力調査においては、国語では語彙や読解力の不足、算数の図形や表の理解、文章問題においてつまずきの見られる児童が目立ったので、各教科の基礎的な事項の復習を繰り返すとともに、一人一人の児童の課題の解消に重点を置いた指導を心がけた。その結果、1月に行った区学力調査復習において、すべての学年で言語についての知識・理解・技能について向上が見られるとともに、算数では数学的な考え方の問題で確実な伸びが見られた。全教員に足立スタンダードに基づく授業の基本を確実に身に付けさせることが、児童のさらなる学力や体力の向上を目指す上で必須となる。今後も教職員一丸となって、児童の基礎学力の定着と一層の伸長のために尽力していく。